

第17回東広島市生涯学習フェスティバル（2007）に出展

第17回東広島市生涯学習フェスティバルが11月3、4の両日、東広島市運動公園体育館で開催され、広島大学マスターズも初参加しました。以下は会場設営とプレゼンテーションを取り仕切った安藤忠雄幹事の報告であります。非常に詳細な報告であり、今後の参考になると思われるので、全文を掲載しました。

広島大学マスターズは11月3、4日の第17回東広島市生涯学習フェスティバルに初めて出展し、好評だった。

会場は市の運動公園の体育館。マスターズに割り当てられたブースは幅3.6m、奥行き2.7m、高さ2.4mもある。発足後1年足らずなので、とりあえず会の組織と活動を紹介することにした。

マット紙に印刷したAゼ口版のポスター27枚を切り張りして、幅2.6m、高さ1.5mの巨大ポスターを3枚制作した。右側面には、設立総会の写真を中心にマスターズを紹介し、正面には市民講座、学校への出前講座、市のまちづくり出前講座など現在実施中の活動を、そして左側面には地域社会との連携を模索しているマスターズを紹介した。

初日の午前中、知人がブースに立ち寄ってくれたが、多くは目もくれずに前を通り過ぎるばかりである。これでは苦勞した甲斐がない。昼前に自宅に戻りポスターを使ったクイズを考案した。ポスター中央には化石を持って授業している沖村会員の写真がある。その右には宗岡会員らの魚の話が載っている。たまたま私はブラジルで買った魚の化石をはさんだ石と小魚の化石を使ったペンダントを持っている。

「この石の中には何が入っていますか？正解者1名にそれを使ったペンダントをあげます。答のヒントは、ポスターの写真と説明文にあります。」と書いたビラと解答用紙100枚を用意して会場に戻った。ブースの机の上に赤い布を敷き、その上に金色の紐で縛った化石を置いた。「クイズをしてみませんか？賞品は珍しいペンダントです。」と通りがかりの人に声をかけると子供から高齢者までブースに入ってくれる。若い女性にも気軽に声をかけられる。クイズが始まると3時間ほどは呼び込み、クイズの説明、マスターズの紹介と腰をかける間もなかった。

100名様限定としたクイズは両日とも3時間ほど実施し、200枚用意した解答用紙は時間前に完売となった。おそらく300名くらいの人たちがブースに来てくれたことだろう。おまけにクイズの答を探そうとポスターを隅から隅まで良く見てくれる。一石二鳥である。賞品は公開の抽選の結果、高屋町のご婦人が手に入れた。今回のフェスティバル出展はマスターズを地域社会へ紹介する良いきっかけになったし、これを機にマスターズの協力を得たいという人も何人か現れた。これで準備から後片付けまで丸々4日間つぶした苦勞も多少報われた気がした。(安藤忠男)

